

障がいのある子の就学講演会 2014

件名の集いに参加した。大学祭で残念ながら京ちゃんを案内できなかったので、とにかく会場に向かった。久しぶりの北区役所なので、戸惑ってしまい直前の到着となった。前の方のあいている席に座ると、その前に京ちゃんのお父さんが座っていた。これも偶然だが、なにかの「めぐりあわせ」であろうか。

集いは片桐健司さんの「親に付き添いをさせる『支援教育』なんてありえない」と題した講演から始まった。席から京ちゃんが見える。すこし苦しそうだったので、そちらに目が向いてしまった。配布された豊富な資料から、じっくり学ばせてもらおう。

次いで「春紀の学校生活～西尾市からの報告」である。お兄ちゃんが素早く準備して、お母さんの能美康子さんが気持ちをこめて報告した。準備するお兄ちゃんに感心した。写真上は春紀くんとお父さん、お母さんである。たくさんの写真を使った報告は、春紀くんの学校生活の「苦労話」がじわりと伝わってくる。ビデオで見た京ちゃんの学芸会のこと、学校生活などを思い出しながら、お母さんの話を集中して聞いた。

写真下は質疑の時間に話す、京ちゃんのお父さんである。そばには京ちゃんがじっと見つめている。話が長くなると、京ちゃんが「合図」をするそうだ。今日も分かりやすく、学校のことなどを話された。参加者とりわけ私の心に響く報告であった。これまでの京ちゃんご家族の「苦労」と学校生活の現状と課題を再確認できた。京ちゃんも満足？

京ちゃんの顔を見るために、集いに参加してよかった。京ちゃんとの久しぶりの再会はもちろんだが、障がいをもつ親子の話などを聞いて、京ちゃんご家族の頑張りの意味を客観的に知ることができた。障がいのある子の就学、学校生活の問題点などについて、学ぶ機会をもてた。障がいをもつ人への「差別」とともに、「共生」「ともに学ぶ」ことの大切さをあらためて考えさせられた。こうした集いに、地域や学校関係のもっと多くの人たちに参加してもらいたい。集いが終わり京ちゃんのところに行くと、京ちゃんが涙していた。不安に感じつつ立ち去ったが、あとからお母さんからメールが届き、私との再会を喜び、私との「別れ」を悲しんだそう。そんな心優しい京ちゃんに、また会いたくなった。



(2014年11月25日)